

【訂正】

8～10 頁【第 1 回保育フォーラム in 福島「放射能災害下の保育を考える」(資料 3)】の案内の中に、【日本保育学会研究集会開催予告】が誤って入っております。

正しくは、以下の 2 つフォーラムの案内です。裏面の案内を、それぞれ以下の頁に挿入して下さい。

8 頁：【第 1 回保育フォーラム in 福島「放射能災害下の保育を考える」(資料 3)】を
差替え

21 頁 10 行目：【日本保育学会研究集会開催予告】を挿入

第 1 回保育フォーラム in 福島「放射能災害下の保育を考える」(資料 3)

第 1 回 保育フォーラム in 福島「放射能災害下の保育を考える」

主催 世界幼児教育・保育機構 (OMEP) 日本委員会 後援 日本保育学会

日時 平成 24 年 3 月 28 日 (水) 午後 1 時 30 分～4 時

場所 郡山女子大学附属幼稚園大ホール (福島県郡山市開成 3-25-2 電話 024 (923) 4001)

参加対象 保育関係者、教育関係者、保護者、一般 (定員 50 名)

趣旨

東日本大震災から 1 年を経て、震災の被害、生活への影響は計り知れないものがあります。特に、放射能汚染問題は、被害が可視化されないこと、その影響は長期間、広範囲にわたること、特に育ち盛りの乳幼児への影響が強いこと等、特別な問題を抱えています。放射能線量が健康不安材料になっている地域の保育現場は、子どもの健康問題、心身の発達保障、乳幼児にふさわしい日常生活の確保、保護者の不安の解消やニーズへの対応等、外部からは捉えられにくい強いストレス状況にさらされてきました。そうした中で日々の保育の営みを最良にする術を探りつつ、保育を破綻させることなく成果を上げ、保護者、地域からの厚い信頼を得てきた保育現場の努力と専門性は高く評価されましよう。

しかし、未だに今後のあらゆる面で保育に関する社会の動向が不透明です。OMEP 日本委員会ではこの事態を重く受け止め、海外の OMEP 関係者からの支援の一部を放射能災害下の保育の充実のために活かしたいと考え、地元の保育関係の皆様のご協力を得て、以下のようなフォーラムを企画しました。

目的

- 1 改めてこの 1 年の保育を取り巻く環境と実践実態、問題の所在を確認整理し、共通理解を図り、今後の保育に対する取り組みを探る。
- 2 広く世界に現状を発信し、困難な状況下における保育に関する叡知を集め、よりよい保育実践、子育て支援、地域連携への手がかりを得る。
- 3 必要な支援を訴える。

フォーラム成果の活用

本フォーラムの内容は文字に起こし、国内外に OMEP ニュースレターなどを通して国内外に発信する。

話題提供内容 (討論内容)

- ・放射能災害下の保育からの学び
- ・地域に生きる子どもの生活を守ることと保育施設の役割
- ・生活におけるリスクの選択 (保護者の意識とその問題等)
- ・地域連携上の課題
- ・子どもにとって環境の豊かさとは
- ・保育の基本要件と実践上の工夫
- ・求められる外部支援等

話題提供者

保育実践者 保育経営者 OMEP 日本委員会他

参加申し込み (連絡先)

郡山女子大学幼稚園 FAX で 【番号 024-923-4001】

所属名 参加者名をお知らせ下さい。(保育フォーラム参加) 締切 3 月 24 日

実行委員

関 章信 (めばえ幼稚園) 安斎悦子 (大槻中央幼稚園) 吾妻利男 (はなさと保育園) 賀門
康博 (郡山女子大学附属幼稚園) 関口はつ江 (東京福祉大学) 上垣内伸子 (十文字学園女子大学)
日浦直美 (関西学院大学)

日本保育学会研究集会開催予告

テーマ 放射能災害下の保育実践と子どもの育ち ～保育施設の役割と保育の原点を探る～

会場 郡山女子大学 創学館 521 教室 (福島県郡山市開成 3 - 25 - 2)

日時 平成 24 年 11 月 17 日 (土) 13 時 30 分～16 時 30 分

実施担当

災害時における保育問題検討委員会 (委員長 太田光洋)

コーディネート および 話題提供

災害時における保育問題検討委員会 放射能災害下の保育研究ワーキンググループ

趣旨

東日本大震災被害の中でも、放射能汚染による子どもの生活環境破壊の問題は未経験、長期的という点で甚大かつ特殊である。本委員会では、23 年 5 月より放射能災害下にある幼稚園 7 園の協力を得て保育の実態把握を開始し、幼稚園の保育内容、保護者の意識の継続的調査と討論、子どもの発達調査を行ってきた。また、放射能線量の高い地域を中心に、幼稚園、保育所約 200 か所の園長と保育者、その保護者約 10,000 名への調査を実施し、放射能災害による保育実践、保育者、保護者の意識の変化と子どもへの影響について、現時点 (震災後約 1 年) での実態把握を試みた。

上記の過程において、放射能汚染という自然環境破壊のもとで暮らす子どもに、健全な生活と発達を保障するための模索、保育現場と保護者の主体的、探索的な活動、意識の変化が語られ、保育の基本、保育施設の役割が改めて問われた。

今回の研究集会においては、調査にご協力いただいた保育現場の皆様さまへの調査結果のご報告と共に、この災害がもたらした問題の本質の把握、保育の見直し、保育環境改善のための対策等をご参加の皆様と話し合い、保育現場の進展の一助としたい。

コーディネート 関口 はつ江

話題提供

- | | |
|-------------------------|--------|
| ・放射能災害による保育実践の変化と子どもの経験 | 賀門 康博 |
| ・保育者、保護者の意識の変化 | 加藤 孝士 |
| ・子どもの発達状況と課題 | 長田 瑞恵 |
| ・危機的状況下の保育の振り返り、子ども理解 | 田中 三保子 |

参加について

日本保育学会会員、その他どなたでもご参加になれます。

参加費無料。事前申し込みをお願いします。

申し込み等詳細は、日本保育学会ホームページ <http://jsrec.or.jp> をご覧下さい。